

目次 Contents

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 3 高藤直寿選手
金メダルおめでとう!! | 17 青少年育成市民会議だより美薔 |
| 4 正しく知ろう 新型コロナワクチン | 18 環境トピックス |
| 5 まちの話題 | 19 地域おこし協力隊通信 |
| 6 1市2町デマンド交通
相互利用試験運行開始 | 20 図書館だより |
| 7 障がい福祉瓦版 | 22 国民年金だより |
| 8 保健便り | 23 暮らしの情報 |
| 11 レッツスポーツ | 33 9月のカレンダー |
| 14 生涯楽習だより | 34 キプロス通信 |
| 16 新・下野市風土記 | 36 イベントカレンダー |

※掲載写真の一部は、撮影時のみマスクをはずしています。

今月の表紙

高藤直寿選手 東京五輪で金メダル

今月の表紙は、東京2020オリンピック競技大会の柔道男子60kg級で優勝し、金メダルを手に笑顔を見せる高藤直寿選手です。

前回のリオ五輪では銅メダルを獲得した高藤選手。「東京オリンピックでは何が何でも金メダルを取りたい」と意気込みを語っていました。

柔道男子60kg級の試合は開会式の翌日、7月24日に行われ、高藤選手は日本勢の金メダル第1

号となりました。広瀬市長も「オリンピックの1年延期という異例の事態の中、不撓不屈の努力で悲願の金メダル獲得という偉業を成し遂げられたことは、大変素晴らしく、本市の誇りです。(中略)夢と感動をありがとうございました」と祝福のコメントを寄せました。

※高藤選手の金メダル獲得については3ページで詳しく特集しています。(写真：共同通信社)

今月の何の日

9月23日 万年筆の日

1809年のこの日、英国のフレデリック・フォルシュが万年筆の基礎となるペンを考案し、特許を取得したことに由来していますが、フォルシュが万年筆を発明したわけではありません。

さかのぼれば、10世紀のエジプトのカリフ（イスラム国家の指導者）が手を汚さないペンを欲しがり、万年筆の原型ともいべき筆記用具が発明されたという記録があります。また、誰の手によるものかはわかっていませんが、17世紀後半から18世紀初頭にかけて作られた万年筆が現存しています。日本でも、筆と墨を一緒にした懐中筆（矢立）という文具が、鎌倉時代から使われていました。

万年筆は、多くの部品から作られています。特に重要なのが、ペン先（ニブ）、インクタンクから

ペン先へとインクを導くペン芯、そして本体です。

19世紀に入ると、フォルシュがイギリスで最初の特許を取得したのを皮切りに、1827年にルーマニアの発明家ポエナルが白鳥の羽根を用いたインクタンクで、1832年にパーカーがインクの自動充てん機で、1883年に米国のウォーターマンが毛細現象を利用したペン芯で、それぞれ特許を取得しました。他にも多くの人々が、万年筆に使われる部品のひとつひとつに関するアイデアを発展させ、現在の正しく機能する万年筆を作り上げていったのです。

同じ文字を記すという行為でも、手で書く、脳を強く活性化させる効果があるそうです。「文字を打つ」ことが多い現代ですが、お気に入りの一本を見つけて、手書きの喜びに触れてみませんか。

■人口と世帯（8月1日現在）

人口/60,184人（-3）、男性/29,941人（0）、女性/30,243人（-3）、世帯数/24,983世帯（+24）

